

2022年度

N0.13 (通算 NO35)

2022・10・30

事務局だより

一般社団法人 示現会

事務所 ☎ 03-3824-9128

○ 仲間を増やそう

裏面 ○<特集> 地域の展覧会報告

整理していて、懐かしい写真を見つけました。
当時理事長だった松木先生を囲み、皆さんが集合しています。懐かしい顔を見て当時のことをいろいろと思い出しました。
あれからたった15,6年しかたっていないですが、メンバーは大きく変わりました。でも示現会の伝統は絶えることなく続いています。
そして一層発展させるのが私たちみんなの願いだと思うのです。

仲間を増やそう！



懇親会会場に向かう皆さん。知っている方々が大勢います

今年、11月までに示現会のホームページで12の個展、グループ展を紹介しました。これらの会場は示現会をPRする場ともなります。実際、本展、巡回展の鑑賞の後、自分も示現会展に出品してみたいという方もおられました。みなさんも機会を作り、発表する場をつくってみましょう。それが仲間を増やすきっかけとなります。



2006年、第59回示現会展は東京都美術館で開催されました。60周年記念展より六本木の国立新美術館で開催されることになり、この年が東京都美術館の最後の年になります。
4月6日、開会の日、最後の開催となった東京都美術館の前で記念写真を撮りました。
15年余たった今、多くの方がいろいろな事情で示現会を去りました。一方、新しい仲間も増えました。
しかし、もっともっと示現会を活気ある、楽しい絵画団体にするためにも仲間が必要です。
同封の「理事会報告」は地域での活動を支援し、示現会への参加を促す力になることを願っています。

長野支部展の報告

東信ジャーナル [Blog版] 掲載記事

示現(しげん)会長長野支部展「2022」 (14日まで、上田市市立美術館)

第33回示現(しげん)会長長野支部展は14日まで、上田市天神3の市立美術館市民アトリエ・ギャラリーで開いている。

示現会は、堅実な具象絵画の追求を理念に1947年に創立した全国規模の洋画団体。
東京国立新美術館で今春、展示された県支部会員ら16人の作品を一堂に展示。

示現会役員6人が賛助出品した。

会場には、50号から130号の大作がずらりと並ぶ。

上田市保野の小日向輝登さんは民家の軒下で柿をつるす女性を描いた水彩画「干し柿づり」=50号=を、初出品し初入選した。

「コロナ禍」の一昨年、昨年は県支部展や作品研究会、写生会などの活動を中止した。

事務局を務める須坂市の小山賢一さん(72)は「3年ぶりに支部展を開催できた。支部会員が一堂に会し、作品を並べると刺激を受けて制作意欲が湧きます」。

長野県支部長の上田市天神、保坂良郎さん(85)は東御市の田園風景を描いた「薫風」=100号=を展示。
「コロナの行動制限で気持ちを維持するのは大変だが、これからも楽しくおらかに描き続けていきたい」と話していた。

入場無料。
展示時間は午前9時半から午後5時まで。
最終日は午後3時まで。



会場となった、上田市立美術館「サントミューゼ」と下段は会場の様子



第三十三回長野県支部展はコロナと猛暑の中、八月十日から一四日、上田市立美術館「サントミューゼ」で開催されました。支部会員だけの作品展ですが、本部の御好意により賛助出品として本部役員先生の作品六点も展示することが出来ました。コロナ禍2年、一堂に会する機会もありませんでした。本展出品者全員が搬入日に集まり短時間の内に展示作業を済ませる事が出来ました。実質四日間の開催ですが約四百名の入場者があり、成功裡に終わる事が出来ました。第三十四回支部展は八月一六日(水)〜八月二十日(日)に開催されることが決まりました。従来の会場の2倍のスペースを確保することが出来ました。いろいろな可能性のある支部展にしたいと思います。

事務局 小山賢一

特集1

今年も各地で示現会会員による活気あふれる展覧会の報告がありました。現在ある15支部以外の場所での活動になります。それぞれに歴史を持ち、地域に根差した活動は示現会を支える力になっております。

各地の活動

示現会北海道作家展 代表 岩佐邦夫

【コロナに負けないをスローガン】に札幌で10月6日～11日の会期で開催しました。

今年からは新人の募集にチラシ、ポスターで呼びかけた結果8名が新しく参加しました。いずれも力のある作品で将来が楽しみです。

現状では9名のところ、一挙に17名となり、作品も12点の展示予定が16点増え、合計28点に倍増しました。

尚、本年までは札幌市文化芸術活動支援事業で会場費の半額補助が有りましたので低価格での募集で呼び掛けられました。

しかし次年度はこの補助が無くなる為、本展覧会の維持が困難で大幅に出品料を値上げして継続するか、22年間続いた展覧会を断念するか迷っていました。

ところが開催の前日、本会常務理事の佐藤先生が見えられ、毎々からご検討をお願いしていた本部助成金について、説明があり、10万円を持参していただきました。

又先生には、搬入作業の終了後、開催した総会にが出席くだされ、いろいろご指導していただきました。また、この助成については、本部の理事会で検討を重ね、今年度より条件を満たせば、助成いただけるとのことでした。

本来は赤字決算の所本部助成を得て、次年度の継続計画を建てられました。さらに増員を図り、収支均衡を図る運営する方向を目指すことにいたします。誠にありがとうございます。



前列左端
代表の
岩佐さん



宮城示現会 会長 金子 薫 20022 年度 宮城示現会活動報告

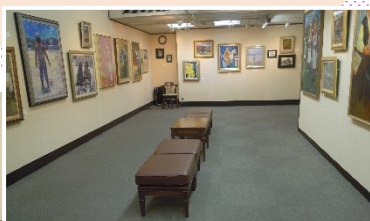
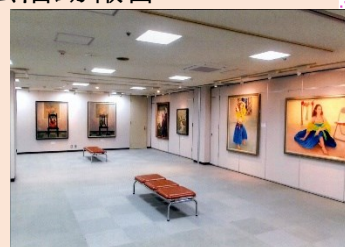
コロナ感染症が終息しない中仙台エレクトロホール宮城にて7月21日～25日の間で一年遅れの30周年記念宮城示現会展を開催しました。

開催期間中に宮城芸術祭も行われ、沢山の来客がありました。30回目の宮城示現会展を迎えられたことは感無量であります。

宮城正会員(12人)とその他の会員・会友(3人)の出品がありそれぞれ個性溢れる作品を展示、作品に対する来客からの講評を得ることができ、最高の勉強となることを再認識致しました。

展覧会開催に当たり、井上武先生には色々ご苦勞をおかけしました。改めて有難うございます。

次回開催は2024年ですが、尚一層の精進することを会員みんなで語りあいました。



九州地区からの報告

女性パワーで素晴らしい展覧会が開催されました。多くの方が訪れ鑑賞しました。開催は2回目になります。

ちょっと紹介

福岡支部、久留米支部の女性会員による第2回示現会女性会員展を8月23日から28日まで、福岡市新天町にあるギャラリーセルにて行いました。19名の参加者があり42点の作品を展示することが出来ました。コロナ感染症第7波の真只中ではありましたが多くの来場者があり嬉しい限りでした。「皆さんの絵をみて力を貰った ありがとう」との言葉に私達も逆に頑張っていく力を貰った思いでした。19名の一人ひとりのキラキラとした個性がぶつかり合いながらも、一つの大きな力になっていたように

思います。私達は忙しい日常をドタバタとアタフタと過ごしながらも絵を描くことは止められない。みんなの思いは同じだった様に思います。絵を描くことは生きることと値すると思うし生きることは絵を描くことに値すると思う。

そんな心境の中で会を無事終えることが出来ました。次回は2年後に繋いで行くことを確認して！

女性会員展担当 久留米支部 秋吉ヤス子



出品者名

秋吉ヤス子	隈丸千代ノ	友松君子
石橋律子	小谷由紀子	波多野雅子
今村知恵子	五郎九千恵子	花井静子
江本智美	角忍	原三枝子
大塚美和子	瀧井利子	古海恵美
川内桂子	党美智代	松隈晴美
		吉野節子